

1. 批判的思考力の ICE ルーブリック

I フェーズ	C フェーズ	E フェーズ
クローンペットビジネスについて、に論述できている。	生徒間や ChatGPT 等との対話と通して、自分の推論プロセスを意識的に吟味し、論理的・合理的に（根拠とともに）論述できている。 （分量）問4つのうち、2つは記述している。	生徒間や ChatGPT 等との対話と通して、自分の推論プロセスを意識的に吟味し、クローンビジネスの抱える課題の解決策や新たな課題を設定しつつ、より論理的・合理的に（客観的な根拠とともに）論述できる。 *（分量）問4つのうち、3つ以上は記述している。

*全体を通じて：母犬の負担や受精卵の犠牲は重く受け止めなければならない。

問1「核家族化や少子化、地域のつながりの希薄化などで家族一人当たりあるいはペットへの過度な依存が見られる中、ペットを喪ったときの飼い主の精神的ダメージは確かに大きい。そのため、クローンペットビジネスは有効だ。」このことについて、反駁・意見を述べよ。*クローンペットビジネスの必然性はどうか。

- 母犬の負担や受精卵の犠牲を増やしてまで必要なビジネスなのか。
- ペットを失ったダメージは社会とのつながりの中で克服していくべき。現在における、過疎化、孤立・孤独化、ネット社会における人とのつながりの軽薄化が問題なのではないか。
- カウンセラーやNPO団体は存在していて、それらを周知・活用していくことが重要である。
- 人類がお金や新たな科学技術で精神的なダメージを乗り越えようとする思考が生じてしまうことは、クローンペット以外で将来的にさらに別の問題を生じてしまう危険もある。

問2「クローンペットビジネスは費用が高い。そのため、富裕層でニーズがあるが、そもそも自身が持っている資産をどう使おうか、その人自身の問題であり、クローンペットビジネスは成立してよい。」このことについて、反駁・意見を述べよ。

*利用者以外にも社会全体への影響も考慮する。

- 利用者の権利はともかくペットのクローンによる母犬への負担や多数の受精卵の犠牲があることを意識すべきである。
- 利用する人だけの問題ではなく、利用者が増えていくことで人々の考え方が中長期的に変わってくる。その中で、ペットを失うことの精神的ダメージについて、ペットを甦らせればよいという安直な考えが浸透していくことにつながる。

問3「植物でもソメイヨシノを挿し木してクローンで増やしているように、クローンを増やすことは問題ない。」このことについて、反駁・意見を述べよ。*動物や植物（あるいはミドリムシや乳酸菌などの微生物）での扱いの違い。

- 例えばヒトのクローンが禁じられているように、倫理的に問題のあるクローンは存在する。
- 植物の挿し木や茎頂分裂組織のカルス化の培養とは異なり、動物には神経があり、痛みが存在する。安易に生命を増やしたり、操作したりことは動物の権利を侵害している。
- そもそも、自然に繁殖するのと、ヒトの手でクローンをつくることを同一に考えてよいのだろうか。

問4「クローンペットビジネスが進展することで費用が下がり、また技術も向上するので、現在は多少の犠牲があったとしても将来的には失敗による命の犠牲も大幅に減り、またこの技術の発展で黒毛和牛やクロマダなどの畜産の分野にもつながり、望ましい。」このことについて、反駁・意見を述べよ。*ペットビジネスと畜産の違いに着目できたか。

- 現在の犠牲に視点がいていない。確かに将来的には犠牲が減るもののそれが現在の犠牲を肯定するものにはならない。
- クローンペットは一部の国の一部の企業が商業用に行っていることに問題がある。
- 黒毛和牛やクロマダなどの畜産は日本をはじめ、安全で適切な手法であれば研究を推奨すべきだが、ペット産業と畜産は必要性・必然性に差があり、畜産分野との比較は適切とは言えない。（農林水産省は科学的観点と動物愛護の観点を両立させ、研究を推奨している。）